一仏両祖の教えを今に伝える

57)2016年秋号(通巻138号)平成28年9月1日発行(第3種郵便物認可)

2016 秋号 No. 138

理が出とくを 解してほしい地よく

精神対話士・ 寺院を 寺院を 一間を手藤木隆宣

## すべての生きもの 、養する 正木 県

まさき・あきら

宗教学者。1953年神奈川

県生まれ。国際日本文化研 究センター客員助教授を経

て、慶應義塾大学、立正大

学講師。『「千と千尋」のス

ピリチュアルな世界』など 多数の著書がある。

## お迎え」と先祖供養

近の方に、あの世から、 おり「お迎え」が来ることです。 「お迎え」をご存じでしょうか。 誰かが、 臨終間 文字ど

繁に起こっている事実があきらかになっ 密な調査の結果、「お迎え」がかなり頻 えないと思われがちです。 現代人の常識では、 そんなことはあり ところが、 綿

たのです。

東京大学大学院人 行された『死生学 文社会系研究科 〇〇八年三月に発 と目標」から、 と組織化』の課題 E『死生学の展開 「グローバ ル C O

本格的な調査をお さらに二〇〇七年 最初の調査を実施。 証的な調査研究を そこで厳密かつ実 とを知りました。 な最期を迎えたこ ど例外なく穏やか おこなう必要を感 た患者がほとん より大規模で 二〇〇二年に

偶者(夫・妻)という順番でした。 五二・九%を占めていたのです。 が「お迎え」に来たという例が、 あったのです。 ついで兄弟姉妹をして友人や知人、 し詳しくいうと、 さらに驚くべきは、「お迎え」の内容 じつは「お迎え」を体験した方の割合 つまり半数近くの方に「お迎え」が なんと四五・六%にも達していまし すでに亡くなった家族や知り合い 父母が圧倒的に多く、 もう少 全体の

仏や神が「お迎え」に来た例が 二〇〇二年の先行調

> 会岡部医院理事長)が、 迎え〉体験の語り 研究』第九号に掲載されました。論考の に、執筆者の一人である岡部健氏(爽秋 タイトルは「現代の看取りにおける〈お そもそもこの研究の発端は一九九七年 トから 一」です 在宅ホスピス遺族ア 宮城県名取市植松

の中で、 所を開業した時点 を専門とする診療 宅死患者が「お迎 岡部氏は臨床経験 から始まりました に、在宅緩和ケア こうした体験をも る事実を観察し、 え」体験をしてい 多くの在



のうち、 査でも、

仏にまつ

こなったのです。

挿絵 / 長谷川葉月 学説に注目してい は三つあるという 授)による、 氏(駒澤大学名誉教 論考は佐々木宏幹 五件しかありませ 人の「ほとけ」に んでした。 わる回答はわずか この点について 日本

るのです。 「ほとけ (先祖霊)」に惹かれるのが自然で (先祖霊)」であるなら、人々は教理とし本尊も「ほとけ(仏)」、先祖も「ほとけ あろうという学説に、賛意を表明してい ての「ほとけ(仏)」よりも身内としての は①仏教の如来・②死者・死霊・③成仏 ます。すなわち、 した先祖霊・遺骨の、 日本人の「ほとけ」に つごう三つがあり

供養をとても大切と感じ、連綿と受け継 研究によって、 なったのです。 いできた理由がよくわかります。 たしかにそう考えると、 先祖供養の意義が明確に 日本人が先祖



聞き手/藤木隆宣

## 則田宥全師に 精神対話士

## 可らたかっため

## 心地よく理解してほし仏の教えを

私が子供の頃は田舎育ちの

人の力になれることを喜びとするあ

活させよう う行動が出始めている

えもあってのことで 前田さんはご自坊 (三田・正山寺) で「あな れますが

う行動が出始めているのは確かだと思い



正山寺外観

## 寄り添うところから相手の心情に

法要をやりた は供養として成り立つの と相談を受けた場合、 ただお経を読ん

> 人の力になれることを喜びとするあまり、 考えを押し付けてしまう

## 時として、死にたいと 思っている方もいるわけです

ふたを閉めていた部分がたくさんあっ

「お辛かったでし

んできたのかとか、というようなことがばあ

とあふれてきたんです」と。

し上げるところから始まります。

ごされました た、あるいは主人が生前どんなことを言って

で一年間過ごしてきたような気もしますが、 に気づくことができました。 方丈さんに聞いてい 「人に話をするということ自体、 する機会がない ただ悲しい思い もので す から

では法話という一方的なものだっ 前に大体二〇分ぐらい法話をさせていただい ういうスケジュ ては食事をするというような具合ですね。 そして当日のご供養となりますが、 よいよここでお食事 墓前での読経、 読経が終わったらお墓に行 -ルが一般的と思いますが 戻ってきて、 供養の

丈さんがこんなことをおっしゃっ 打ち合せで電話をしたときに、 や参詣者自身の心情的なものが吐 具体的な話をすれば、「日程の

方丈さんから聞いてもらえなけれ いう内容の話というのは、殊更に



も心が安らかになりました」とお話しされ お線香を立てて主人に語り掛 気づくことによって、 そんなところにも気を向 とて

死にたいというような心境を語る場所なん 事情で、あるいは社会的な風潮によって、 ないわけですし、 もないという方がいらっしゃる。そういう、 た伴侶を亡くされた。この妻が、 ス抜きするべきだったところを、 て話すことになるんです。本来はどこかでガ 何度死のうと思ったか」ということを、 ここで吐露される。「実は主人が亡くなった後 が亡くなって、 わけです。ずっと長年付き添って、 死にたいと思っている方も そういうお気持ちを初めて もう自分には生きてい そんな重たい話、 普通はで

未来に向けて

月王像(うすさまみょうおうぞう)

しゃられたのであれば、「そうですか、死

ずに栓をしてしまって

かなかガス抜きができ

いる方が多いと思いま

未来を前向きに

藤木│檀信徒の思い、本音のところを引き出 すためにはどういうことを心がけていらっ

交っていく いに視点を向けるといいます 人も含め対象はすべてということ

持ちをそのまま私が受け止めるということで 前田一これは一番基本とするべきところは、 いったご相談が仮にあったとする 「私は死んでしまいたい」とお たいぐらい辛いという、

掘り下げて聞く 原因は何ですか」と の辛い状況となった んでしまいたいぐら い辛いんですね。そ

か亡くなって日常が そうすると、

立したような状態で、 立したような状態で、 一日誰とも話さないと か、あるいは家族から それこそ無視をされて いるような状況である と、いろいろな方がい らっしゃいます。そう いのではないか、死ん でしまいたいと、そう いういうふうに思われ る方や孤立してしまっ ている方が多いと思いれ

前田 ているのかというところに、 藤木|そういう方が来られて、 を自分の命を紡いでいくべく、 いうところで気づき、 もともともなぜ自分が死にたいと思っ がある、そこからその方ご自身はどう いかれるんでしょうか。 わけですが、理由をはっきり自覚す れば、気づいていない方もいら 今まで後ろ向きだったもの またこれからの道を見 気づ 前田さんとの 自分自身の状 いている方

ここで大きな支えになるのが仏教なのです。そういう話をしていくことが必要です。その方の歴史として紡いで、じゃあどういう進めて、その方自ら吐露されたことをうまく、めていく。私が分析をして、解釈的な理解をめていく。私が分析をして、解釈的な理解をおばあちゃんの死に対する整理の仕方を進

いじめ 深刻な状況 子どもを取り巻く

それでは今度は子どもたちの問題で、

先生も子どもに生き方を説かないという問題にる親も生き方を子どもに説かない。学校の深刻かと申し上げるかというと、家庭での長ず、家庭にしても学校にしても。これがなぜす、家庭にしても学校にしても。子どもを育前田一これは深刻な問題ですね。子どもを育れなことで相談にこられますか。

だと、言ってみればどちらも悪いし、どちらころに来ている中学生ですが、いじめを受けなくなってしまった。学校の先生が対応してなくなってしまった。学校の先生が対応してなれたのはいいんですが、から学校に行けないのは

があるのではないかと思います。



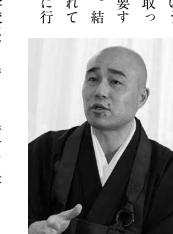
本堂内観

ただ単に当面の はじめます。

ただ単に当面の問題があるから死にたいのではなく、実はもと自己肯定感が薄かったり、命そのものに対する執着のものに対する執着にさったのであれば、その中で自分はどのような感情

ま常に厳しい両親に育てられた中で、おばあちゃんは私にいつも優しく接してくれたったなってしまったと話をしてくれる方がいました。「あなたの死にたいという思いももちになってしまったと話をしてくれる方がいまっかうふうに整理したらいいのかを考えました。」と話します。ここがとてもれた中で、おばをもったのかをお聞きしたりします。

きにいいでしたいというも悪くないというも悪くないというも悪くないというも悪くないというも悪くないというも悪くないというも悪くないというも悪くないという



ている。 友達だっているし、 ない場合もあるようです。フリースクー な塾に行かせて、何とか勉強だけは継続 子どもをどうやって、どのような形で違う受 み方がまたひどくて、 り組んでいると言います。 してやりたいとまでその子は思うようになっ いことに、その子の家の近くに大きな公園が いじめにあって行けなくなってしまった。悪 け皿に移していくかということしか考えて 本当は、自分は学校に行きたい、 けるようにということをいじめ対策と称し もちろんままならないので、それだった いじめ対策と称しているところもある。 いじめ対策をしていますとか、 公立の学校はどこでもそうですけれど つらを思い知らせるためにおれが死ん いじめた連中がそこに遊びに来るよう いじめられている子どもを転校させ みんなと遊びたいのに、 学校に行けなくなった あいつらを殺 仲良しの 取り組 ル的

親も生き方を子どもに説かない。 学校の先生も子どもに生き方を説かない

つ頃からそうい

帰依仏竟 南無帰依僧 南無帰依法 帰依仏無上尊 帰依僧和合尊 帰依法離塵尊 帰依法免

## 三帰依文

南無帰依仏

秀

高

たかはし・しゅうえい

昭和十七年北海道生まれ、 駒澤大学仏教学部卒業、 同大学院博士課程修了、 元神奈川県立金沢文庫長。

財団法人メンタルケア協会著『人の話を 「聴く」技術』を5名の方にプレゼントい たします。仏教企画(下欄の送り先)まで、 お名前・ご住所・電話番号・プレゼント名 を明記のうえハガキでご応募ください。 平成28年11月末必着

曹洞禅グラフ136号(春・彼岸号)プレゼントネ ルケ無法師の著書『迷いながら、生きる』は次の

東京都/居木邦子様 秋田県/春日光顕様 愛媛県/栗田良則様 福岡県/田代敏博様

宮城県/真山けさ子様

身近な人との心温まるふれあいや本誌へ の感想、仏教についての質問などを600 字以内でお寄せください。Eメールでも 受け付けております。

〒252-0113 神奈川県相模原市緑区谷ケ原2-9-5-5 仏教企画編集部

Eメールアドレス… fujiki@water.ocn.ne.jp

読者からのお便り

春日光顕 様

ネルケ師の言葉「迷うことは決して悪いことじ ゃない」がとても印象的でした。迷いがある時 その状態から逃げずに、迷いを認める、気づく ことをまず心がけようと思いました。

前田

そうです

自分の気持ちの整理を

つ

フと頑張ってい

る方も

その整理を

うことで行き詰まって

たまたまインタ

ネッ で

その子が死にたい

してや

には、

実は親

その子

もここで初めてそう

気持ち

それを乗り

と思って

を目標と

もに考えて

いる状況です

れ以上の措置ができないと

と思 スも多 あ る が

お話は相手の相談に応

10

な気持ちを

## 帰依僧竟

## 作品

## ご家族のみなさまの応募をお待ちしております

お手本を参考にして、作品を半紙(横向、お名前は左側)に書いてご応募ください。(無料) ご応募の中から優秀な作品を選び、年に1度誌上で発表し、記念品を贈呈します。 住所、氏名、電話番号を明記して作品をどしどしお寄せください。

送り先 〒252-0113 神奈川県相模原市緑区谷ケ原2-9-5-5 仏教企画 6042-703-8641

締 切 平成28年11月末

# 遺教経解説

まるやま・こうがい

昭和21年群馬県生。早稲田

大学卒業。駒澤大学大学院博

士課程満期退学。昭和57年

得度(浅田大泉老師)。同年立

職(浅田泰徳老師)。平成元年 嗣法 (余語翠巖老師)。 現在所 沢市吉祥院住職。曹洞宗総合 研究センター特別研究員。

## 仏遺教経(仏垂般涅槃略説教誠経) 姚秦三蔵法師 鳩摩羅什

## 原文訓読

に比丘、 第一安穏功徳の所住処たることを。 定及び滅苦の智慧を生ずることを得、是の故 波羅提木叉と名く、此の戒に依因て、はらだいないと ることを得ず、是をもって当に知るべし、 く善法有り。若し浄戒無ければ諸善功徳皆生ず るべし、もし人、能く浄戒を持てば、是則ち能 我は是れ正順解脱の本なり。 当に浄戒を持って毀欠せしむること勿ない かるがゆえ 諸の禅だの

慧を得ることができるのである。そうであるのだか ができる)と名づけるのである。 叉(出家者が守り続ける戒律、 又 (出版者が F-温・・・・・・ とうであるから波羅提木て覚りを得る根本である。そうであるから波羅提木ー・リー・リーコーく馬レー 苦しみの世界から抜け出 したならば、 比丘たちよ、 諸々の禅定や苦しみを滅ぼす(整える)智 ぜひとも浄戒(仏の定めた戒)を守 これによって迷いの世界を離れること 苦しみの世界から抜け この戒によって行動

奈良法隆寺 である。 えば、 見せしめて、 (制御する) 杖を 牧する人が、 が当然のこと ことのないの 振り回される 味・触の五境)に 欲(色・声・香・ 手気ままに五 の感覚器官を して、 牛を放 たと

はなく、 もし、 よって慎まねばならないものなのである。も及ぶほどのもので、大変に重い害になるのである 終わるが、 ものである。もし、 馬は人を引きずって穴の中に落とそうとするような ない五欲を生じて、 他人の家の農作物を食べさせないようなものである。 わりのような大洪水や大風災の害)による苦しみは、 五根の好き勝手にさせたならば、 あばれ馬の轡を以て制御しなければ、 五根をほしいままにした災いは、何世に 劫害(劫水、劫風のことか、この世の終 制御することができないだけで まさに涯の その



ること賊の如くにして縦逸ならしめざれ、 いこれをほし 是の故に智者は制して而も随わず。 て其の磨滅を見ん、 ままにするとも、皆また久しか この五根は心を其の 之を持す たと

> こそ、 いだろう。このことからよくよく分かりなさい、守らなければ、諸々の善き功徳を得られることは 戒を守れば、善いことがあるだろうし、ぁこれを破るようなことをしてはならない。 ることを。 最高の平穏無事の功徳を得られる拠り所であ 諸々の善き功徳を得られることはないことがあるだろうし、もし浄戒をっなことをしてはならない。もし、浄

譬えば牧牛の人の杖を執って之に視せしめて、 ざわひ累世に及ぶ、害を為すこと甚だ重し。 て、、坑陥におとさしめんとするが如し、 縦 逸して人の苗稼を犯さしめざるが如 まずんばあるべからず、 害を被むるも苦一世に止まる、五根の賊禍はわ のくつわづらを以て制せざれば、当に人を牽 ^、将に涯畔無うして制すべからず、亦、五根をほしいままにすれば、唯五欲の五 こて、放逸して五欲に入らしむること勿るべし 汝等比丘、己に能く戒に住す。当に五根を制 からず、亦、悪馬、唯五欲のみに非 もし劫

を受けてその中にいるのである。 比丘たちよ、比丘であるので、 君たちはすでに戒 そうであるから、

躁して、 主となす。是の故に汝等まさに好く心を制すべ また狂象の鉤なく、 して、禁制すべきこと難きが如っ も甚だし、越逸なること未だ論するに足らず たとえば人有り、手に蜜器を執って動転 軽 心の畏るべきこと毒蛇・悪獣・怨賊・大火よ 但だ蜜のみを観て深坑を見ざるが如し 猿猴の樹を得て騰躍時

無し。是故に比丘当に勤めて精進して汝が心を 折伏すべし。 之を一処に制すれば事として辨ぜずということ るべし。此の心を縦にすれば人の善事を喪う 当に急に之を挫いて放逸なら しむること無か

勝手気ままに

ほかにないほどである。はなはだしく、それ以上 ぜひとも心を制御しなければならない。 主となるのは心である。そうであるから、比丘たちよ なくなってしまうような空しいものである。 まにしたとしても、 て勝手気ままにさせてはいけない。五根のほしいま 続けることは、五根を賊のようにしっかりと捕まえ 御して、従うことはしないのである。 きものであることは、 こういうことだから、 く、それ以上であることは喩えるもの その結果は全て間もなく消えて 毒蛇・悪獣・怨賊・大火より 智慧あるものは、 五根を制御し 心が恐るべ 五根を制 五根の

があることに気が て気持ちが浮かれて、 った象を制御するのに鉤がなかったり、 制御することが難しい てしまい、 蜜の 付かない 飛び跳ねたり 入っ 蜜だけに気を取られ、 た器を手にしたので、 ようなものである。 よう なものだ。 走り回ったりする ったりするので、猿に木にのた。また、狂いれ、深い穴 嬉し

心・智慧など)を失ってしまうだろ しての善事(誠信・孝順・精進・念善・一 を勝手気ままにさせれば、 にさせるべきではない。この心 心を制御しおさえて、 ぜひとも急いで 好き勝手

逸な心を打ち砕いてしまいなさい。 ひとも精を出して仏道修行に専念し、汝の迷いや放とはないだろう。そうであるから、比丘たちよ、ぜ いかなることも処理できないこ 心を一つ処に制御するならば、



置や、修飾語の位置などが転 文章が多いので、 倒したりしていて、そのまま にしてみました。 の逐語訳ではわかりずらい 訳文を丁寧

解釈は不必要であると思います。是非、 だければ、改めてこの経文の 訳文を

それで訳文をお読みいた

よくお読みいただきたいと思います。

## 解説

あっても、 ことに改めて気が付きました。これでは和文で 文訓読に対して、逐語訳では意味が通じづらいての度、『仏遺教経』を訳してみまして、原 お釈迦様の最後の説法を理解することは難しい との度、 耳に聞いているだけではせっかくの

に言葉を補ったり、 ですから逐語訳ではなく、 また訓読が主語と述語の位 意味が通じるよう



五根の欲に振り回されな ح ک

すのは、 識・感情・意志などの働きのもとになるもの」 「心」の作用によるといえましょう。辞書を引 鼻・舌・身がその働きを為すことができるのは うに指し示すことはできませんが、 どころがありませんが、眼・耳・鼻・舌・身のよ とは、ということになりますと、大変にとらえ 是の故に汝等まさに好く心を制すべし」と。心 などと書かれています。 いてみますと、「人間の精神」「人間の理性・知 表現しています。「この五根は心を其の主となす。 るのが「意」の働きです。この経典では「心」と といいますが、この機能に欲の思いを抱かされ お釈迦さまは、 最後の力を振り絞って、 ということです。眼・耳・鼻・舌・身を五根 五根の欲のほしいままにしてはならな 周りに集まってきた弟子たち たとえば、 説いてくださいま 人間の遺体 眼·耳·

心があるからです。 ことはできません。 をご覧ください。眼・耳・鼻・舌・身はあります 眼・耳・鼻・舌・身はいかようにも働きます。 心はありませんから、 しかし、 いかなる働きも為す 生きて命のある間

を起こす、 な匂いがすれば食べたいという気を起こす、お 音がすればうるさいと腹を立てる、おいしそう と惰眠を貪る、 いしいものを食べたときもっと食べたいと食欲 美しいものを見れば欲しいと思う、騒々しい 心の作用です。 十分眠ったはずなのにまだまだ眠い などなど五根がもろもろに働く

心に振り回されていることになります。 御することです。五根が欲に振り回されるのは、 五根を制御するといいますが、それは心を制

## 心に振り回されな $\lor$ う こ

心に振り回

と勿るべし」と。 浄戒を持って毀欠せしむるこ 脱の本」なのですから、 されなくなるのでしょうか。 ゃるのです。「戒は是れ正順解 そこで、 ではどうしたら、 お釈迦様は、 おっし 当に

最期の教えを説いて、 ことの解脱を得られるように、 お釈迦様は、 仏弟子たちがま 解脱に導

> です。 け止めて、学んでいきたいと思います。 戒が順々に説かれますが、 いてくださりたいのです。弟子を思う師の真情 この度このお経を学ぶ私たちも、 御釈迦様の真情を受 厳しい

せん。 悠々とした真の幸せの境地に導いてくださりた っていることは、決して難しいことではありま 御釈迦様の願いは、すべての人間を救いたい それだけです。 御釈迦様が、 お説きくださ

君たち自身、 ださりたい、それだけです。その願いでお説き 悩みの暗闇から、広々と明るい世界に導いてく くださったのが、「戒」なのです。 そして、その戒を実践できるのは、汝達比丘 苦しみの淵から救ってくださりたいのです、 と語りかけてくださいます。

釈迦様は常に「汝達比丘」「汝達比丘」と語りか けてくださいます。 これから先、 解説を次号でも続けますが、 お釈迦様が私たちの代わり

べ もの。 耳・鼻・舌・身と心はあなたの を学んでいきましょう。 を灯りに生きていく、 たそれぞれの五根と心です。戒 制御する心は私のもの。任され 公はあなたです。 とはできません。 の眼・耳・鼻・舌・身とそれを この命を生きてくださるこ 私の主人公は私です。 あなたの主人 あなたの眼・



# 古岡博道

を添えています。著語、添え語、いた人もそれを思い、円の横、い問題です。見た人、夫々に答え 相きとい ます。 もない。 い問題です。見た人、夫々に答えがあり、書この仏様をどう受けとめるか、仲々、難かし にいえば、書いた人の心持ちを表わします。 の言葉に味わいがあります。 といいます。継ぎ目もなく、初めも終わり子供でも、大人でも誰れでも書けます。門 これで仏様の姿、心を表わします。更 だ円形もあれば、いびつな円もあり 臨済宗の仙厓の円相で〇の横に 添え語、賛です。こ 曹洞宗ではあり 上、下に言葉

> 「これく めやりたやお茶つみに」と。 饅頭に見立てています。 ○の横に「遠州浜松、 ふて茶まいれ」とありました。 よい茶の出どこ、 。同じ臨済宗の白隠は | とありました。○を むす

ます。 います。 庶民の中に入って、 私達に仏様の心持ちを印象深く示してくれ 仏様は日常の生活の中にあり、両者共、 教えをわかり易く説いて

(一六七三~ 山県西来寺、 一六七三~一七四六)。徳翁・宗門の円相を紹介します。 静岡県少林寺、 現良高の弟子。岡 のりょうとう のりょうとう の最初は黙子素渕 鳥取県退休寺に

er yes

め於實後

形形あれ

宋正是你

山かる中

黙子素渕(正泉寺蔵)

渠まさにこれ汝』です。「宝鏡三昧」というが、影、相い視るが如し、汝、これ渠にあらず、治 が、ままままま。訓えてみると、宝鏡に臨んで、汝」とあります。訓んでみると、宝鏡に臨んで、汝」とあります。』 影をみる。汝とは形、 経にあり、 に「如臨宝鏡、形影相視、 影は必ず形を持って影があるというので 「黙子和尚語録」 宝鏡とは鏡、 渠とは影であり、 鏡を前にして、 汝不是渠、 渠正是 形は 形と

白隠の賛とは違い難解です。

比倫するに堪うるなし、と訓みます。この〇との賛は「寒山詩」の「無物堪比倫」で、物の です。 よしおか・はくどう 1942年9月27日、静岡県生まれ、 滋賀県善勝寺 大梅法選の弟子で長野県耕雲芸だらばらほうせん 一本は明庵哲了(一七〇五~一 研究科修了。現在静岡県藤枝市文 化財保護審議会会長、禅文化・洞 上墨蹟研究会会長、正泉寺東堂。 常徳寺に住し 人です。

> を澄み切った秋月とみて、 何とも説明のしようがないと。 他と比べようがな

ます。 ます。このわかりやすさこそが、 わからないが、 の人気のもとなのです。 曹洞宗二人の賛は仏典の心得がなけ 日頃のくらしぶりに仏心を見つけてい 仙厓、白隠は読めば、 仙厓、 わかり れば、 白隠



明庵哲了(正泉寺蔵)

と復興の為に心をひとつにして、 を企画しました。東北の曹洞宗僧侶が慰霊 として、慰霊と復興祈願の行脚「祈りの道」 区教化センターは四〇周年記念事業 日本大震災から五年。 曹洞宗東北管 これから

僧侶が一つになって復興を願っているとい 脚しました。 発する北ルー 県善寶寺の浄水を捧持して、 点である宮城県石巻市まで六日間かけて行 されたお札と、 **うメッセ**ー いとの思いからです。 大本山永平寺 、二つのル -ジを表すためです。 リレ く・ほうに、青森県の恐山の灯火、山形、青森県の恐山の灯火、山形寺・總持寺の両禅師様が揮毫 福島県から出発する南ル トをリレー形式で最終地 -形式にしたのは管内の 岩手県から出



18





法衣からは雨水がしたたり、

白足袋は泥の

経を唱えなが

で法要を行い

般若心

を出発しました。

出発は五月六日

、福島県は南相馬市の同慶寺れ、岩手県は宮古市の常安がおい、岩手県は宮古市の常安が出発は五月六日。快晴に恵出発は五月六日。快晴に恵

ら歩きました。

終盤は雨が降りまし

色に染まりますが、

行脚の足取りは緩みま









みです。 浄土宗浄 海岸が近い為すべての建造物やお墓が流さ 宗派の枠を超え、 今現在も簡易な建物と慰霊碑があるの 土寺でも慰霊法要を行 被害の多かっ ました。 た荒浜の

ん張り、 した。 たちの想いを表しているようです。 大きく揺れ、 に見送られての出発です。荒れる波に船は いに答えるかのように、 トのみ海上慰霊法要を行いました。 最終日の五月一一日は風雨となり 更に気合いを入れてお経を唱えま まるで大震災で亡くなった方 僧侶たちは足を踏 その想 檀信徒 南ル

故者供養と復興祈願法要を修行しました。 で黙祷を捧げました。 寄せた洞源院で二つのルー の午後二時四十 一一日は震災の月命日です。 地域住民の避難所として多くの方が身を 六分には鐘を鳴らして全員 地震発生時刻 -が合流, し、

ました。 の僧侶が総距離約五五○㎞の行程を行脚し 「祈りの道」は、 慰霊七三箇所、 一二三名

は道の途中です。 万人近くいます (1月現在)。 月現在)うち仮設住宅に住んでいる方が6 なりました。 いる人もいますが、 被災地の現状が報道されることは少なく 日常を取り戻すことが出来て 避難者は約17万人(2 まだまだ復興 取材 ほったさとこ

玄妙なる空間に入る関所 ための玄関、 ひとつは、 三つ造るのが る方丈に玄関が造られました。 ちなみに、 では鎌倉時代になって、 方が出入りするための玄関、 っていく入 ではどんな建物にもある玄関ですが つはこの言葉はもともと禅語です 一般住宅にも広がってい 家族が使う玄関です。 お参りにこられる方をお迎えする 可能であれば、禅寺には玄関を もうひとつは、ご法事などで大 5 П とわたしは考えています。 というのがその意味です。 い修行、 住職の居室であ それが江戸時 そして、 わば、 ったのです。 の道 三

る方の墨跡、 寺の居心地も使 は自分の師にあ のことによって、 分けですが、 わゆる書や頂相 い勝手も、 ます。 部屋のなかで 向上すると思 ック、プラ トの使い 尊敬す 大き そ

(姿図) がとても

丁 花が芳香をす。春し

漂わせ、

夏には

せます。

秋にな

季節の声を響か

やってくる蝉が

冬には木々に積

れば葉が色づき、

の景色を現出さ

った雪が清浄

「春は花 ととぎす 春は花 夏ほ道元禅師に 秋は

たれ、 冷しかりけ その移ろい に足を踏み入れ、 冬雪さえて 静かで穏やかなものとなるのだと思い を感じることで、 り」という歌がありますが、 それぞれに美しい 人の心は解き放

・四季を、

鎌倉時代に禅宗が広まることによって花

た、

本格化した、

という言い方ができる

禅寺

安時代に芽吹いてい

た枯山水

の考え方

ます。

です

造りを伝えたのは、 空間に置き換える、 ものとい から始まり 僧が修行によって会得した自分の心の境地を 「禅の庭」は自然を凝縮して境内に展開 ています。 つ てい ました。中国から日本に「禅の庭」 る蘭渓道隆(大覚禅師)だといい。 ちんげどうりゅうだらがくぜんしは、のちに鎌倉・建長寺のご いでしょう。「禅の庭」は禅 表現する、 とい うところ した

> たり 前で手を合わせ、 とにいらっしゃるかのような気持ちで、 がありますが、 前に香炉を置いてお香を焚い 切にされました。 墨跡や頂相をその方に見立て、 したのです。 師はすでに亡く すが如く」という言葉 らを床の間 なら 花を供え まるでそ れて K その N て

るための庵だったのですが、 られているところが多く見られます。 禅寺には境内に塔頭という別の寺院が設け言で手を合わせ、お参りをしたわけです。 山様のお墓のこと。 引退した僧の隠寮と 塔頭はそれをお守りす そこから発展し 独立した寺院

っても 然のパ 季折々の姿をそ ほぐしてくれる は固まった心を が緑だと思い に欠かせないの たことではあり 力があります。 八知を超えた自 樹木の緑に 自然は四 ワ S いでし お寺 とい ま つ

ある枯山水につ庭」の代表格で り、橘俊畑ないとしては確立されて る『作庭記』と るが有力とされ にすでに庭造り いての記述もあ れています。 には「 う書物も編ま **う人の手にな** もっとも、 -安時代 そ 0) お

を借り、 宗の寺院は、 るように、 ます。禅僧の理想は「樹下 でも修行しています。 (夢窓国師)です。 したのは臨済宗ですが もしれません。 日本での「禅の庭」づく 石の上で坐禅をするといった修行 大自然に抱かれて、 自然から離れざるを得なか 国師は臨済宗の人で建長寺 「禅の庭」造りを牽引 倒下石上」の言葉があいばせまじょう。これには理由があり りの祖は夢窓疎石 上」の言葉があ 大樹の下に 宿 0)

21

ざ庭を造る必要がなか されましたか は自然を凝縮した「禅 幽谷の自然のなかに建立

その際、 っ 修行僧の多く すわること 禅寺では 八る修行 『が決め で坐禅 っ

るみなさん 0) 2

は庭に向か つてす

です。

ける 一方、

0



は修行をする

ますの・しゅんみょう

1953年、神奈川県生まれ。建 功寺(横浜市鶴見区)住職。多 摩美術大学環境デザイン学科教 授。住職でありながら庭園デザ イナーとしても高い評価を得て いる。祇園寺紫雲台庭園『龍門 庭』など国内外多数の庭園作品 を手がける。『心に美しい庭を つくりなさい。』など著作多数。

です。

の

は立ち止まる るだけでは 生き方を見 一回すわり とです。 自分を見 る。



写真提供: 枡野俊明

23

表紙画/平川恒太

| 禅の空間、    | 東日本大震災 慰霊と復興祈願行脚「祈りの道」 ほったさとこ | 現代宗門人の書 | 仏遺教経解説 | 毎日書道 | 寺院を語り合いの場とするために | すべての生きものを供養する |
|----------|-------------------------------|---------|--------|------|-----------------|---------------|
| 佇まい、しつらえ | 慰霊と復嗣                         | の書      | 説      |      | 合いの場            | きものを          |
| しつらえ     | 祈願行脚口                         |         |        |      | とするた            | 供養する          |
|          | 祈りの道」                         |         |        |      | en<br>IC        |               |
| 枡野俊明     | はったさとこ                        | 吉岡博道    | 丸山劫外   | 高橋秀榮 | 前田宥全            | 正木            |
| 20       | 18                            | 16      | 12     | П    | 4               | 2             |



書店もしくは、

下記宛にハガキ・電話・FAX・メールにて

仏教企画

お申込

〒252-0113 相模原市緑区谷ケ原2-9-5-5

電話:042-703-8641 FAX:042-783-0989

Eメール: fujiki@water.ocn.ne.jp

平川恒太(ひらかわ・こうた) | 1987 年高知県生まれ、2011 年多摩美術大学卒業、2013 年東京藝術大学大学院を修了。ゴールデンコン ペティション 2012 にてグランプリのゴールデン賞(2012)、FACE2013 損保ジャパン美術賞にて審査員特別賞(2013)などを受賞する。